

令和7（2025）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	スマ	対象水域	日本海・東シナ海（佐賀県～沖縄県）
担当機関名	沖縄県水産海洋技術センター、水産研究・教育機構水産資源研究所 浮魚資源部、佐賀県玄海水産振興センター、鹿児島県水産技術開発センター	協力機関名	

1. 調査の概要

佐賀県から沖縄県において、1989～2024年にかけて各県主要漁港で水揚げされたスマの漁獲量を年別および月別に集計し、漁獲動向を調査した。

また、水産機構および沖縄県は、長崎県近海および沖縄本島近海から生物標本を収集し、生物学的特性の把握に努めた。

2. 漁業の概要

佐賀県の主要市場2か所、熊本県天草漁協、鹿児島県内41漁協、沖縄県内32漁協で水揚げされたスマの年間漁獲量を図1および表1にまとめた。

(1) 佐賀県

主要市場2か所における漁獲量は、1995年の121トン进行ピークに減少し、2020～2024年は2.8～17.3トンの間で推移している。直近上記2市場の月別漁獲量は、11～12月に漁獲量が増加する年が多いが、その他の月でも大きな漁獲がある場合もある（図1）。

(2) 熊本県

2012～2021年の天草漁協全14支所における漁獲量は、0.2～33.4トンであり、年変動が大きいものの、2016年以降の漁獲量が増加傾向で推移している。月別の漁獲量は、佐賀県と同様に11～12月に増加する年が多いが、10月に漁獲が増加する年もみられる（図2）。

(3) 鹿児島県

鹿児島県における漁獲量は、1998～2011年まで10.0～46.2トンの間で推移したが、2012年以降増加傾向が続いており、2024年は220.4トンまで増加している。鹿児島県では、11月～翌年2月が主要な漁獲月となっている（図2）。

(4) 沖縄県

沖縄県においてスマは、一本釣り、曳き縄および定置網などによって漁獲されており、主要産地と漁法は、伊良部島の本一本釣りおよび曳き縄漁業、読谷の定置網漁業となっている。1990年には57.8トンの漁獲があったが、徐々に減少し、2000年以降3.5～23.0トンの間で推移している。月別漁獲量は、冬から翌年の初夏にかけての漁獲が比較的多い。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：温帯から熱帯にかけての海域に分布し、日本では太平洋沿岸、日本海西部から九州南岸および琉球列島沿岸に分布するとされるが、詳細な分布や回遊に関する生態は不明である。
- (2) 年齢・成長：インド洋では、3歳で50～65 cmに達する（Collette and Nauen 1983）。日本近海では、1歳で39 cm、2歳で45 cm、3歳で51 cmに成長する（Ohshimo et al. 2024）。
- (3) 成熟・産卵：雌の生殖腺指数（GSI）は、長崎近海域で7～9月、沖縄近海域で4～6月に高い値をとる（Ohshimo et al. 2024）。
- (4) 被捕食関係：魚類、頭足類、甲殻類を捕食し、カジキやサメに被食される（Collette and Nauen 1983）。

4. 資源状態

4県の漁獲量は、鹿児島県の漁獲量増加に伴い、2012年以降増加傾向が続いている。しかし、資源状態の指標となるCPUE等の情報が不足していることに加え、日本海西部・東シナ海海域における詳細な回遊経路が明らかになっていないため、現時点で資源状態を判断することは困難である。

5. その他

特になし。

6. 引用文献

Collette, B.B. and C.E. Nauen (1983) FAO Species Catalogue.1983. Vol. 2. Scombrids of the world. An annotated and illustrated catalogue of Tunas, Mackerels, Bonitos and related species known to date. FAO Fish. Synop., (125)Vol.2: 33 p.

Ohshimo, S., K. Matsuzaki, Y. Fujinami, T. Kodama (2024) Biology of kawakawa *Euthynnus affinis* in the East China Sea: Growth, reproduction, and stable isotope ratios. Regional Studies in Marine Science, 69: 103346

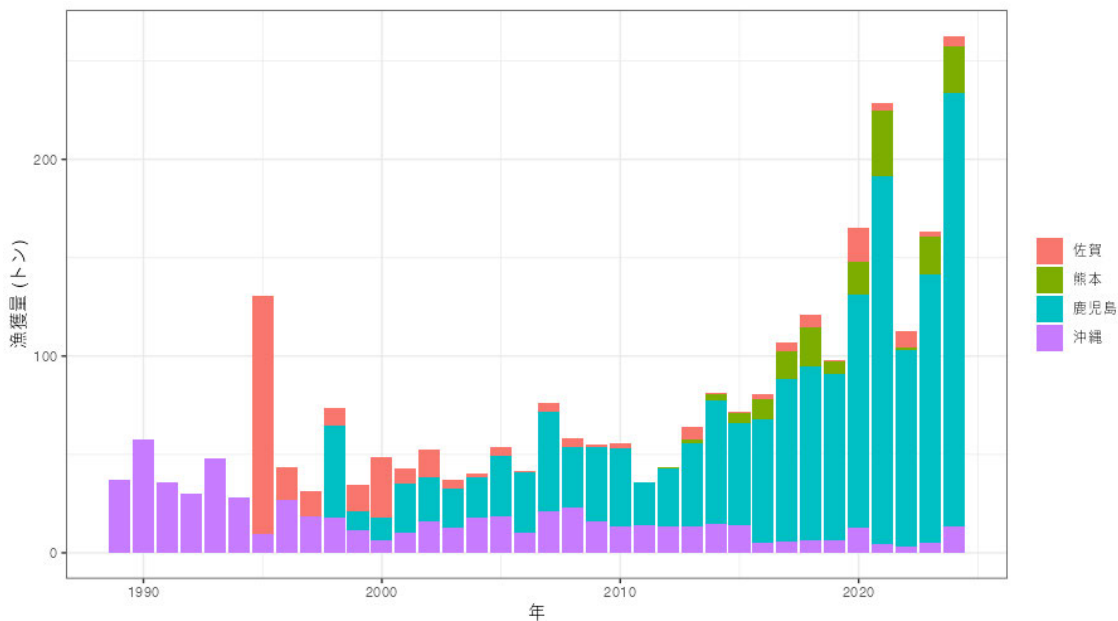


図1. 佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県におけるスマの年別漁獲量 集計開始年は、佐賀県が1995年、熊本県が2012年、鹿児島県が1998年、沖縄県が1989年。

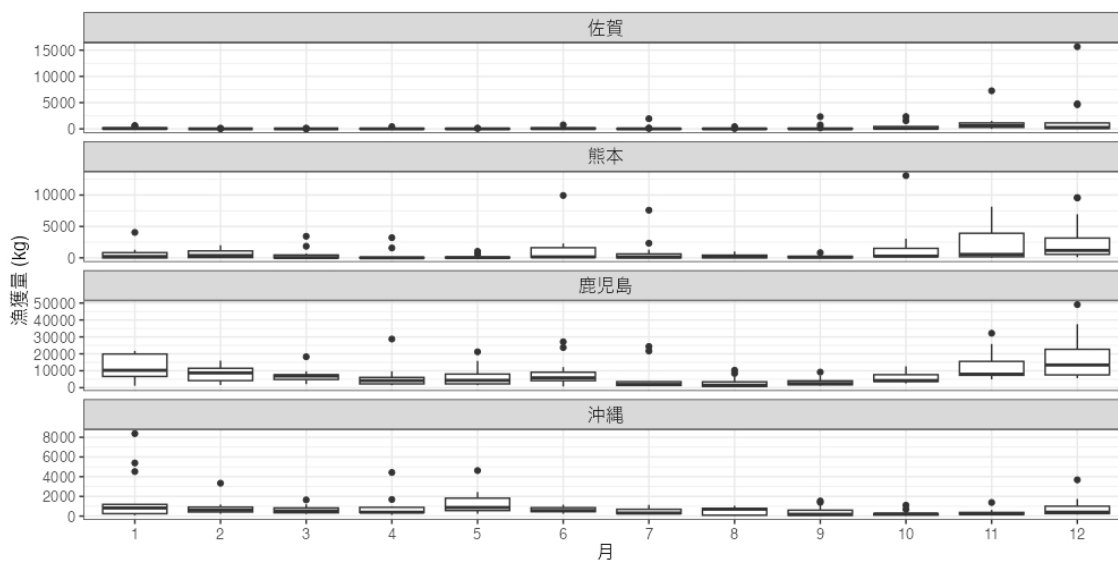


図2. スマの月別漁獲量

表1. 各県におけるスマの年間漁獲量（トン）

年	佐賀県	熊本県	鹿児島県	沖縄県
1989				36.9
1990				57.8
1991				35.6
1992				30.1
1993				48.1
1994				28.4
1995	121.1			9.8
1996	17.2			26.6
1997	12.8			18.6
1998	9.1		46.2	18.2
1999	13.6		10.0	11.3
2000	30.5		11.3	6.6
2001	7.8		25.2	10.1
2002	13.8		23.0	15.7
2003	4.4		19.8	12.7
2004	1.5		20.8	17.7
2005	4.1		30.7	18.7
2006	0.4		30.8	10.4
2007	4.1		50.9	20.9
2008	4.9		30.5	23.0
2009	1.2		37.8	16.1
2010	2.5		39.6	13.4
2011	0.1		21.5	14.2
2012	0.0	0.2	29.8	13.3
2013	6.4	2.1	42.1	13.7
2014	0.8	3.2	63.0	14.4
2015	0.2	5.2	51.9	14.1
2016	2.6	10.3	62.7	5.3
2017	4.7	14.4	82.3	5.8
2018	6.2	20.1	87.9	6.7
2019	1.0	6.2	84.4	6.6
2020	17.3	16.9	118.4	12.8
2021	3.9	33.4	186.8	4.4
2022	8.3	1.4	99.5	3.5
2023	2.8	19.0	136.5	5.1
2024	5.2	23.8	220.4	13.3